

3週間の教育実習を終えて感じたことは本当に多くありました。長かったような短かったような気もしますが、このままずっと続けていたいという思いにかられました。担当していたクラスが2年生だったこともあり、彼ら彼女らはどのような進路を進むのかが本当に気になりますし、卒業まで見届けたかったです。そして何よりも、今までのように模擬授業ではなく実際に授業をしたことから多くを感じ、学びました。まだまだ学校の全てを見ることができた訳ではありませんが、実習を通して得たものを3つ挙げます。

実習を通して得たものの1つは「自分次第」ということです。学校というと堅苦しくて何も好きなことができないというイメージをもっていましたが、生徒ではなく先生という立場に立ってみるとそうでもないなという感じがしました。生徒も先生も想像以上に自由で、自分次第でもっと良くなることができるのではないかと思いました。それはいい授業を提供することかもしれませんし、授業を受けることでより自分の力にすることかもしれません。自分の中で限界を作ってしまったということに気づかされました。特に授業を担当した時などには、本当に私が生徒に与える影響は大きいと思いました。授業の準備をどれだけできるかで生徒の理解度は格段に変わりますし、楽しみ方もとても違います。もちろん一定の決まりごとはありますが、教員が行う授業の自由さには驚きました。自由だからこそ、どれだけ教材研究と準備をするかにかかっています。自分次第で良くも悪くもできるんだということ学びました。

2つ目は「部活の存在は大きい」ということです。授業以外で生徒と会話をしているときによく聞こえてきたのが部活の話題でした。今日の練習の話、部活での心配事の話、部活内の人間関係の話、部活の顧問の話等々、話題が尽きませんでした。高校生は本当に忙しく、朝早くから夜遅くまで学校に滞在しています。朝練がある生徒となるとゆうに12時間以上の時間を学校で過ごしていることになるから驚きです。朝早くに学校に行く練習をしているのですから、いつ休み、いつ遊び、いつ勉強しているのだろうと思いました。もちろん部活動に所属していない生徒もいましたが、大半は所属をされていて、学校側も彼ら彼女らのことを応援しています。それほどまでに生徒に影響を与える部活動だからこそ、改善できることは改善していくべきだと思いました。昨今問題点が数多く指摘される部活動ですが、指導者の側に立ってみたことでその教育効果は本当に大きいと実感しました。保健体育の教員の存在意義も問われてくるのではないのでしょうか。

3つ目は「本気で向き合うと何かがある」ということです。朝のSHRや休み時間、授業中や部活動の時間など、生徒と会話をする機会は多くありました。しかし、私自身が生徒と会話するための時間を作ったり、生徒の名前を必死に覚えようとしたり、高校生は何が知りたいのかなどを聞いたりして本気で向き合っていると反応は変わってきました。真剣な質問をしてきたり、悩みを打ち明けたりと私自身に心を開いてきました。授業だけではなく、部活や休み時間などでも本気で向き合うことで、生徒は変わってくれることを知りました。

以上3点のことを私は教育実習を通して得ることができました。